エース電研／除菌水ディスペンサー「Freezia」

除菌水を噴霧・吐出・噴射 1台3役で安心空間を提供

冬の到来ももうすぐ。新型コロナウイルスに加え、インフルエンザの流行も気になるところ。ホール内の除菌や衛生状態に、注意を払う日々は、まだまだ続く。

そんな需要に応えるべく、無数の除菌製品やグッズが登場。選択肢が多すぎて悩んでいる、あるいは用途ごとに異なる製品を買いそろえるのが面倒といったホールも少なくないのでは？そこで、おすすめしたいのが、マルチ除菌水ディスペンサー「Ｆｒｅｚｉａ」。

「当社では、初めて手掛けた除菌・抗菌製品。ホールさまの要望に沿いながら、ユーザーが遊技に集中できる環境を実現します」

そう話すのは、エース電研開発課の田中秀課長代理。

同製品の特長は、①次亜塩素酸水などの除菌水を噴霧、②ボトルディスペンサー（液体定量吐出）、③スプレー噴射という三つの機能を搭載したユーティリティー性。

①の噴霧機能は、除菌水を約100㎡の空間に散布するもの。ノズルが旋回（90、180、300度の3段階設定）するため、「死角なく、除菌している」と、視覚的にも顧客にPRできる。

除菌水を小分け（1回40cc）にして、ユーザーに提供するのが、②のボトルディスペンサー機能。ボトルの除菌水は1週間程度、利用可能で、日常のあらゆるシーンで重宝されること間違いなし。

「スーパーなどで無料提供している飲料水のイメージです。『除菌水がなくなりそうだから、ホールへ行って補充しよう』といった形で、新たな来店動機を生み出せると考えました。顧客の囲い込み・固定化を狙う施策の一つとして活用してもらえれば」

導入ホールの中には、総付け景品や端玉の景品として、ボトルを活用しているケースもあるとか。

もちろん、スタッフが利用するのもあり。手持ちの除菌水が切れた際、ホールで手軽に除菌水を補給が可能。スタッフの清掃用に、吐出量を増やすこともできる。

拭き掃除に利用するダスター（ふきん）へ、除菌水を振りかける際に使用するのが、③のスプレー機能。例えば、ペーパータオルを置いた上で、「遊技機の清掃にご利用ください」といった旨の告知をすれば、顧客の手による、遊技機周辺の〝セルフ清掃〟も期待できる。清掃でスタッフを呼ぶこともなくなるため、「省力化につながるはず」と田中課長代理。

「オールインワン機器、そしてスタッフさんの手間を省くことを目指しました」と力説するとおり、多機能な一方で、運用は極めて楽。除菌水の補給のほかは、ノズルとその周辺を、週に1度、拭き掃除するだけでOK。多様なシーンで活躍する除菌水ディスペンサー。これからの時期に、頼もしい製品だ。



散布量やノズルの方向は前後左右に調整可能。ノズルは噴霧後も濡れない、特殊な形状



人感センサー付きで、接触なしに除菌水を吐出する



タンクは最大20リットルの容量。下のトレーは台車付きで、出し入れはスムーズ



サイズはW320×D330×H1230㎜、H1800㎜の2タイプを用意。島端のみならず、バックヤードに設置するホールも。除菌水は市販のものでOK